

## 「あの崇高な気持ちは何処に...」



東 田 潔（春秋会）

「東京トイレマップ」というホームページをご存知でしょうか？都内のトイレの清潔さ、混雑度、紙の有無をチェックし、汚いトイレベスト3、きれいなトイレベスト3、落書きの紹介、さらには英語バージョンまで作っているかなり本格的なホームページです。更新状況は悪いのですが質の高いコンテンツだと思います。このホームページの存在を知ったときは愕然としました。というのは、この原稿依頼をいただいたとき、真っ先に思いついたのが、私の東京・神奈川トイレマップの紹介だったからです。

もともと腹の弱い私は必要にかられてトイレマップの作成をしていたのですが、マニアックな情報収集をするうちに、ライフワークっぽくなってきたわけです。いつか世の中の役に立つときがくると信じて地道な調査をしてきたのですが。

このホームページをパクッタといわれると私のプライドが傷つくので私家版東京トイレマップの公表は止めることにしました。（なお、個別のご相談には応じますが、私のトイレマップは私個人の考えを述べるものであり、事務所の見解とはまったく無関係であることをお断りしておきます、っと。）

で、なにを書こうか...

ちょっと前、「FM-V」のコマーシャルでキムタクの部屋に勝手に上がりこんだ三谷幸喜が「マイベスト」ってヘタクソな手書きのテープを披露する場面、憶えているでしょうか。あの、「マイベスト」ってテープを見てふと恥ずかしい過去を思い出しました。

赤貧の学生時代、私の財産といえば、アルトサク（フラセルの SA80<sup>(\*)</sup>）というサクでプレミアもんじゃありませんが、貧乏学生には高い代物です。）とジャズのレコードくらいでした。当然、彼女の誕生日プレゼントといっても高価なものを買う金などなく、さりとして大事な廃盤同然のお宝レコー

ドをプレゼントするなんて度量の広さはまったくない。結局、古いテープに自己満足的なジャズの名曲（正確には名演）のマイベストを編集し、プレゼントしたのですが、このテープを渡すときの口上が極めつけでした。「これ、昨日徹夜して作ったテープでさ、世界に一つしかないんだ！」と。これはもう自製の詩を彼女の前で読むくらい恥ずかしい台詞で、1人で考えるといまだに悲鳴をあげたいくらいです。

ただ、結構苦労したことは確かで、何しろ歌謡曲（って死語っすか？）と違って1曲の演奏時間がペラボーに長いので、テープに何曲収まるかは非常に編集上の泣き所だったわけです。結局、「マイベスト」という以上、本当にベストな曲すべてを録音しなければ気がすまないという悪性の潔癖症が災いしたというか、魔がさしたというか、そのテープのタイトルを「マイベスト VOL1」と書いたわけです。もうこなると、完璧に自己完結的に盛り上がってしまい、さっきの臭い台詞のあとに、「VOL2は、クリスマスプレゼントだぜ」と言ってしまいました。

因みに、彼女、全くジャズには興味はなくて...推して知るべし...若さゆえの暴走が生んだ悲劇（あー、第三者からみれば喜劇）というか、その「マイベスト VOL2」は日の目を見なかったわけです。

彼女を捨ててまで（おっと、文脈上「捨てられた」が正しい表現ですけど。）私のがめりこんだジャズとは実に悪魔な音楽なわけです。

こんなふうには落ち込んだときは、必ず「僕にはジャズがついているんだ、ジャズは俺を裏切らない」と、またぞろ臭い台詞を吐きながら日がな一日渋谷の「スウィング」<sup>(\*)</sup>で大音響のジャズを聞いては社会復帰したのものでした。

この、常習性というか、麻薬体質的なジャズの魅

力の根源は何かというと、まず、即興演奏（インプロビゼーション）だと思います。私は、1950年半ば以降のハードバップ、さらには1960年代以降のモード、フリージャズというカテゴリー、というか演奏スタイルが好きなのですが、いずれもインプロビゼーションが命です。

しかし、ジャズに興味がない方でも、ちょっと聴いてジャズらしいと感じる根源のもの（これもジャズの魅力の根源だと思うのですが）は、「ウラ」のリズムと「ブルーノート」に尽きると思うわけです。

「ウラ」のリズムとは、たとえば4分の4拍子の曲で1小節に8分音符が並んだときに、アクセントを偶数拍におくようなリズムをいいます。因みに奇数拍は「オモテ」と言います。よく、「ウラ」のリズムを表現するときは「ウタ、ウタ…」などといって「タ」の部分にアクセントをおくわけです。（なかなか定義が難しくて不正確な表現になったところはご容赦を。）

一説によれば、「人間の鼓動、即ち、生命の自然のリズムは基本的に「オモテ」のリズムで、これに対して「ウラ」のリズムを聞くとアクセント部分が一致せず、つんのめる感じになる。その結果、なんとか一致させようとする体の動きが独特の「ノリ」になる」という、ちょっと怪しげな話もあります。なお、阿波踊りとかレゲエなんかも典型的な「ウラ」のリズムです。

一時、芸能人が「ハワイ」を「ワイハ」と言ったりして逆さ語<sup>(\*)</sup>を連発していましたが、あれはその昔、「ウラ」が命のジャズミュージシャンが言葉もウラ、すなわち逆さにして会話したのが始まりと言われています。

ここまで読んで下さった心優しい皆様、もう少して退屈な話は終わります。

次に「ブルーノート」ですが、これはあるキーのメジャースケール（例えばドレミファソラシド）の第三音（ミ）と第五音（ソ）と第七音（シ）とが半音下がった音を言います。「ブルーノート」をフレーズの適所に使用することにより、黒人独特のブルーなサウンドになるわけです。ただし、あまり多用すると泥臭いもの（ファンキー）になりすぎて

ちょっとくどいと思います。

「ブルーノート」は、アフリカ民族音楽で5音階（ペントニック<sup>(\*)</sup>）しか知らなかった黒人が、奴隷としてアメリカに渡り、7音階（西洋音階）を歌おうとしたところ、どうしても観念できない音（このときは第3音と第7音でした。）のところで半音下がってしまう現象が、次第に音楽理論として発展し、確立されたものだそうです。なお、正確には半音ではなくて4分の1音（クォータートーン）下がっていたようですが、ピアノなどの音階が固定された楽器では表現できないため半音になったそうです。

この「ブルーノート」は、西洋音階的には不協和音と考えられるので、曲に一種の緊張感（テンション）を与えます。いわゆる「クラシック」では使用されない音です。

なお、私個人のもっぱらの興味は、「スケールアウト」といって調やスケールから外れた音を使うことです。これは「ブルーノート」とは比較にならないくらいのテンションがあります。

というわけで、若い頃は、真面目にプロのミュージシャンを目指していたのに今や、トイレマップの作成ごときにプライドをかけている自分が、少し情けないと思っている次第です。これを機会に、ちょっと緑青ができてしまったサクスを久々に吹きまわろうかと思っている次第です。

\* 1...「フラセルの SA80」: フランスセルマースーパーアクション80のこと。セルマーはサクソ奏者なら誰もが買いたい著名メーカーのこと。マニア垂涎の型は、「MARK6」というプレミアムもので、その後の「MARK7」の評判があまり芳しくなく、改良されたのが私の持っている SA80。因みにフランスセルマーよりアメリカセルマーのほうが高価です。

\* 2...「スウィング」: ジャズ喫茶の老舗。かつて、秋吉敏子、渡部貞夫、ジャズ評論家だった頃の大橋巨泉などもよく出入りしていたとか。「オヤジ狩り」に遭うのが怖くて最近渋谷には近づかないのですが、まだ、やってるのかなあ？

\* 3...逆さ語: 「ハワイ」の逆さは正確には「イワハ」です

## 会員だより

が、これを「ワイハ」というのがジャズのセンスです。  
理論的な法則はありません。因みに、「タクシー」は  
「シータク」になっちゃうんだな。

\* 4...ペンタトニック：余談ですが、沖縄音楽も2度と6

度抜きペンタトニックスケールで成り立つ音楽です。  
鍵盤楽器をお持ちの方は、「ドミファソシド」をぐしゃ  
ぐしゃ適当に弾いてみて下さい。なんとなく沖縄っぽ  
くなるはずですよ。